



# 未来への教科書

-For Our Children-

---

出前授業

---



Media Team



復興支援メディア隊  
Media Team

# もくじ

## きずな

地域との繋がり	岩手佳代子さん	(フカコラ美人代表取締役・宮城県)	2
人を助ける	黄裕翔さん	(ピアニスト・台湾)	4
共存共栄	ジェイソン・フォードさん	(英語教師・宮城県)	6

ものづくり	復興とは	本田勝之助さん	(有限会社社会津食のルネサンス代表取締役・福島県)	8
ものをつくる	加賀美由加里さん	(一般社団法人 LOOM NIPPON 代表・東京都)	10	
ものをつくる	松本俊彦さん	(株式会社松弘堂代表取締役社長・宮城県)	12	

## くらし

自然との共生	八丸健くん	(一般社団法人美馬森ジョロウ・岩手県)	14
食を守る	阿部政志さん	(牡蠣漁師・宮城県)	16
自然との共生	島山信さん	(NPO法人森は海の恋人副理事長・宮城県)	18

## 三井物産の東日本大震災復興支援活動

### 自由帳・ワークシート

21

20

「未来への教科書 - FOR OUR CHILDREN -」は、震災直後から被災地の今、課題、未来をテーマに制作しているテレビ番組で、BS12ch TwellVで放送しています。

今回の出前授業は、これまでに番組に登場していただいた人の中から、本企画にご賛同頂いた九人の取り組みを「教科書」にし、登場人物と、実際に取材に当たった榎田竜路が一緒に、中学校、高等学校に訪問し、一日先生として「生きるを育む」をテーマに授業をします。

出前授業は対象地域の中学校、高等学校から受講希望をクラス単位で募集し、選考したクラスに対して一日先生を派遣し教室での授業を実施します。

私たちは子どもたちに大震災、そして今を生きる一日先生と生徒が直接対面することで、自ら考え行動する「生きる」力を育む一助となればと考えています。

きずな

地域との  
繋がり

## わたし、気仙沼に恋しています。

フカコラ美人代表取締役 岩手佳代子さん 宮城県気仙沼市

❖ 震災以前のこと

フリーアナウンサーとして、仙台を中心に情報番組のキャスターや司会、講演活動などをしていました。現在もですが、生まれ故郷の、気仙沼の自然や歴史、文化などの魅力を広く発信する「みなど気仙沼大使」の委嘱を気仙沼市から受け、活動していました。

❖ 震災から現在

地震が起きたときは、番組の収録が終わって、友達と車で伊勢神宮に向かっていました。会津若松の辺りで目の前の高速道路が波打ってきて、これは大変だということで、すぐに高速を下りました。カーナビのテレビで、津波が押し寄せている気仙沼の映像を見たんです。「ああ、帰る故郷がなくなってしまう」。そう思いました。

仙台に帰り着いたのは震災から3日目だったと思います。そこで、自分のネットワークを生かして、できる限りの情報と物資を集めて気仙沼へと運びました。実家の近くにはがれきの山があつて、波に飲まれた車が積み重なっていて、焦げ臭さや色んな匂いがしていました。

避難所になつていていた市民会館で見たのは、顔に泥がついたままの人、靴を履いていない人…。信じられない光景でしたね。それからも「中学校の同級生の○○さんは無事だよ」とか、「ど



### 岩手佳代子

気仙沼市出身。フカコラ美人代表取締役、フリーアナウンサー。震災後「復興屋台村 気仙沼横丁」実行委員長を務めるなど、復興に尽力してきた。被災地から自らの力で立ち上ることを決意し、フカヒレなど気仙沼の食材にこだわった美容サプリゼリー「フカコラ美人」を開発。故郷を元気にしようと奮闘している。

#### 中高校生へのメッセージ

地元を好きになってください。楽しいこと、キラキラしたことは都会にあるとは限りません。地元の仲間と小さなネットワークを築いて、その絆をとどめておいてください。大人になった時、その絆はきっとあなたを支えてくれるはずです。

#### ❖ 将来のビジョン

震災後、気仙沼の町を歩くと、昔は気付かなかつた色々な発見があつたんです。例えば、子どものころ、飽き飽きしていた力ツオも、漁師さんのことや町のことを知つて食べると、本当においしいんです。私、気仙沼に恋してゐるんです。結婚も子育ても気仙沼でしたい、と思っています。今はまだ小さな会社ですけれど、気仙沼の若い女性が誇りを持つて働く会社にしたいですね。

こここの避難所に○○さんがいるよ」などという情報を伝えたまでは駄目だと思い始めました。気仙の皆で立ち上がり経済を回していくかないと、このままでは沈んでいく一方だと思つたんですね。

でも、回数を重ねるうちに、一方的に気仙沼に運んでいるだけでは駄目だと思い始めました。気仙の皆で立ち上がり経済を繰り返しました。

そこで、気仙沼の特産品であるフカヒレで何かできないかって考えたんです。気仙沼は漁師さんがたくさんいて、威勢のいいどちらかというと「男文化」の町だったので、女性の視点で「アンチエイジングな町」にしようと思つて、会社を立ち上げました。そこで、フカヒレを加工する際に溶け出すコラーゲンを使った美容サプリゼリーを開発して、売り出したんです。

きすな

人を  
助ける



## 被災地への思いを音楽に乗せて

ホアン ユイシアン

ピアニスト 黄裕翔さん

台湾



### 中高校生へのメッセージ

何か自分でやりたいことが見つかって自分の夢を持てば、それを一生懸命努力して実現させていくことによって、自分自身も幸せを感じていくことができると思います。

黄  
裕翔

ホアン ユイシアン

先天性の視覚障がい（全盲）を持ちながらも、四歳の頃からピアノを習い始め、数々のピアノコンテストで優勝、二〇〇八年には台湾国家管弦楽団との共演も果たした。そのレパートリーは、クラシックはもちろん、ポップス、ジャズ、ロック、ラテンから即興演奏まで幅広い。

### 将来的ビジョン

東北ツアーレはたくさんの方にお世話になりました。これからも皆さんと一緒に努力していきたいという気持ちを強くしました。これからも音楽を通して、皆さんを勇気付けられればと思います。

中心部にある文水藝文センターで記者発表を開きました。台湾のメディアからの注目度も高く、十数社が取材に来てくださいました。その時私がお話ししたのは、地元の方々との交流を通じてお互いに励まし合うような関係を作りたいということでした。音楽を通じて被災地の皆さんが楽しい気持ちを持つてもらえたらしい。誰かが困難な状況に陥っているならば、自分の持っている能力で出来る限りのサポートをすべきだという想いででした。

東北ツアーレは仙台、気仙沼、会津、郡山の四都市で計五回の公演でした。初めて訪れる被災地。実際に被災地の現状や感覚を体験した上で、これまでと同じように自分の音楽で励ましたいという気持ちが溢れていましたね。

実際に被災した沿岸部に立った時は、率直に言つてすごく悲しい気持ちになりました。離れがたいというか、これまでに味わつたことのない本当に何とも言えない気持ちです。津波の爪痕を自分の手で触つてみて、自然の脅威というものも深く感じました。これからも皆でこのふるさとが早く元に戻るように努力していく気持ちは溢れていましたね。

私は先天性の網膜疾患で、生まれた時から目が見えません。私の音楽の才能に気付いた母の薦めで四歳からピアノを習い始めました。それからは、もちろん努力もしましたし、かなり苦労もありましたが、視覚障がいのある学生として初めて、国立台湾芸術大学ピアノ科の学士を修得し、ピアニストとして活動するようになりました。私の半生を元にした台湾映画「光にふれる」では主演を務めさせていただきました。台湾は日本との距離も近く、すごく親しみの持てる国だと感じていました。

### 震災から現在

地震のことをニュースで知り、私のピアノで被災地の方々を勇気付けるいかとを考えました。震災直後の二〇一一年四月には、震災前から予定していた東京、日比谷での慈善コンサートのために来日しました。実際に日本に行くと、台湾で得ていた情報よりも、更に深刻な状況にあると分りました。私にできることは音楽で被災地の人たちを勇気付けること。「被災地で演奏したい」という想いは益々強くなりました。

想いが通じたのか、台北駐日経済文化代表処、復興支援メディア隊の協力により、中華民国文化部、外交部の主催で東北の被災地を巡るコンサートツアーが二〇一三年十二月に実現しました。念願が叶ったのです。ツアーレに向けて十一月二〇日には、台北市

### 震災以前のこと

私は先天性の網膜疾患で、生まれた時から目が見えません。私

さすな

共存  
共栄

# 子どもたちの笑顔に育てられて

英会話教師 ジェイソン・フォードさん 宮城県仙台市

formance in our breast ....

## 震災から現在

一九九三年、生まれ故郷のオーストラリアから来日。英会話教師として働き始めたのが一九九六年。日本人の女性と結婚して東北で暮らすようになりました。震災前も仙台で英会話を教えていました。地震が起こった時、仕事は休みで自宅にいました。とにかく大きく揺れて、家の中の食器や本などが散乱しました。地域の防災の担当になっていたので、近所を回って安否の確認をしました。幸い、皆さんが無事でした。どの人も不安に怯えた表情をしていましたね。講師をしている高校の生徒や、英会話教室の子どもたちのことがとても心配でしたが、携帯もつながらず、成す術がありませんでした。石巻に住んでいた時に津波警報を何回か経験しましたが、これまで「津波」は言葉でしか知らず、実際に何なのか分からなかった。震災の数日後に被災地を訪れて、津波への疑問や憤りは更に高まりました、悲惨な事ばかりを目撃したので「なぜ、こんなことになるの。なんて、恐ろしいことが起こっているんだ。言葉にできない」と、思いました。

数日後、子どもたちの居場所づくりに取り組む団体、公益財団法人セーブ・ザ・チルドレンの依頼で、外国人被災者の通訳などを始めました。個人的には掃除や片づけのボランティアにも行きました。

オーストラリアから日本に来て、お世話になつている土地への恩返しとでもいうのかな。できる限りのことはお手伝いしましたね。復興していく様子を記録したいと思い、町の様子をカメラで撮影し始めました。自分が教えた子どもたちが、十年後にこの写真を見て「こんなに変わったんだ」と、何か自信のようなものに繋がってくれればいいな、という願いを込めて写真を撮っていましたね。

教えていた英会話教室は震災後なくなつてしまい、生徒だった子どもたちのことがずっと気にかかっていました。教室は、私も子どもたちも笑顔で過ごせる場所だったので、何とかもう一度やりたいと思い、昨年の九月に再開させました。震災前に教えていた子どもたちの多くが、もう一度集まってくれて、毎週土曜日に教室を開いています。ワイワイガヤガヤと楽しくやっていますよ。笑顔のエネルギーというのかな、抱えている悩みも吹き飛ぶような場所にしたい。子どもたちの笑顔に私が育てられているのかもしれません。

## 将来のビジョン

子どもたちに私の故郷のオーストラリアを見せたいと思っています。私は日本に来て成長させてもらつたことがたくさんあります。だから、子どもたちに日本を客観的に見ることができる機会をつくつてあげたいと思います。



## ジェイソン・フォード

オーストラリア出身。高校や日赤石巻病院、英会話教室などで子どもたちに英語を教えている。震災後は、様々なボランティア活動に取り組み、復興支援を続けている。

## 中高校生へのメッセージ

何事もコツコツと取り組むべきです。それは自分自身の貯金になって、人の繋がりへと広がります。今日はできなくても努力すればいつかは必ずできるようになります。そう信じて取り組んでください。

ものづくり

復興  
とは？



## 今の自分の原点を忘れずに

有限会社会津食のルネッサンス代表取締役 本田 勝之助さん 福島県会津若松市

### ～震災以前のこと

うちは代々青果問屋だったので、家業を継ぐような思いで、農業

者のブランディングやその販路開拓など、食のプロデュースの事業を主に取り組んでいます。ことしでおおよそ十年目になります。

大震災の揺れがあった時には、会津若松にある会津木綿の工場にいました。物凄く揺れはしましたけれど、その後も仕事をこなして会社に戻つたら、棚が全部倒れていて、社員は誰もいなかつたんです。「何かひどいことが起きたんだ」と思つて実家に行つたら、家族の顔つきが全く違つていました。そこにあったテレビを見て、事態がようやく分かりました。これまで、一緒に食のブランド化などに取り組んでいたお客様さんが住む町が、まさに津波に飲まれている。とにかくその人たちのことが気がかりで仕方ありませんでした。

原発の事故が起きた時は、放射性物質自体がどのくらいの強さで、どこに向かっていくのか。まずこの福島含め会津にいて大丈夫なものなのか、すぐに私たちも避難すべきなのかどうなのか。情報を集めながら考え悩んでいました。

考えた末に、福島への短期的な支援はできる人が多いので、中長期的に福島と共に頑張つていこうという人を探し始めました。福島と共に福島で働くということを思つてくれる企業、人はいるのかどうか、福島の人たちは不安に思つっていました。いるのであ

ればそれを実感として感じたいと考えたんです。何社も手を挙げてくれました。結果的に難しいという結論に至つた企業も多いのですが、福島に拠点を構えて、復興のために福島のために動いてくれる企業は出てきました。震災以降、「何か力になれば」と言ってくれた人たちの思いは本当に本物で、ある意味一流の方たち、十分な力を持っている人たちが「福島のためになら力になろう」と言つてくれました。

ブランドでいえば、震災前は、地域の特徴を考えてつくった独自のブランドの数はそれほどなかつたんですが、震災後はそれをしなければもう売れないし、そういう商品を応援したいという人たちが増えました。被災地の中でひたむきに支援をしている人の姿などを見て、產品自体の価値よりも、そこに心を動かされたって人が多いんですよね。物を見る視点が、その先の物を作つている人の取り組みや想いに関心が移つていつたと思います。

### ～将来のビジョン

会津では三つの恩を説くんですよ。一つは両親、もう一つは先生、三つ目が地域。やはり何だかんだ言つても、今の自分がある原点を忘れずに、家族のもとで、家族が喜ぶことを、そして今までお世話になつた先生たちにとつて喜んでくれることを、地域のためになることを、やることが結果的には一番後悔のない人生になるのかなと思っています。

本田 勝之助

株式会社ジエイアール東日本企画が運営する、未来への「じまんの一品づくり」プロジェクトのコーディネーターを務める等、震災後、現代のライフスタイルに合つた魅力的な商品を生みだそうと尽力している。



### 中高校生へのメッセージ

これから時代はクリエイティブな人なのか、ノン・クリエイティブな人なのか、はっきり分かれる時代。これを求めていた、これが欲しかったというものを思いつき、仲間と一緒につくることが社会に求められると思います。

ものづくり

ものを  
つくる



## 南三陸をファッションの町に

一般社団法人 LOOM NIPPON 代表 加賀美由加里さん 東京都江東区

震災以前のこと

ジャヌス・ランバンが創設したフランスの老舗ファッショングランド「ランバン」の日本エージェントに入社したことを見つかけに約四〇年間、ファッション業界に関わってきました。「ランバンジャパン」設立時に常務に就任、社長などを経験し、今は顧問です。ドーメル日本支社「ドーメル・ジャポン」の社長もやっています。母として二人の子どもを育てながら、世界中を飛び回ってきました。

震災から現在

震災の様子はテレビで見ました。自然の前に人間は無力だと痛感しましたね。東北の方々の震災後の秩序ある行動を知った世界中の友達が「日本人は素晴らしい」と連絡をくれ、郷土愛について考えさせられました。この美しい日本や日本人が被災し、なんとかしたいというエモーションが湧いた。だったらそのエモーションをアクションに変えなきゃと思いました。

そんな中、気仙沼の知人から、津波にやられた庭の桜が花を咲かせたと聞き、寒い東北で希望の象徴である桜を咲かせたいと思いました。南三陸森林組合との縁が出来、植樹を受け入れてもらいました。二〇年間で三千本の桜を植え、東北一の名所にするのが目的です。でも、せっかく桜が植えられても、地元の人達がいないと復興とは言えません。そのためには、何か新しい産業を興さなければなりません。夢のあるファッションでアクションに繋げていこうと考え、



## 加賀美由加里

ファッション業界の第一線で四〇年近く活躍し続けている。東日本大震災後「LOOM NIPPON」という団体を立ち上げ、宮城県南三陸町でバッグを製造する「LOOM BAG」プロジェクトをスタートさせた。

### 中高校生へのメッセージ

大切なことは、具体的ではっきりとした夢を持つこと。その時点での夢の半分は叶えられたようなものです。努力は必要ですが、あとはギャップを埋めればいいのですから、簡単です。まさに「少年よ、大志を抱け」。若い人達が大志を抱くだけで未来は明るくなります。

### 将来のビジョン

洋服をはじめあらゆるファッションを南三陸で手がけられるようにして、産業としてのファッションを興したいですね。そのためには、人材育成も必要。学校を卒業したら就職しながら勉強出来るような、ファッションの学校のようなものが出たらいと考えています。

ものづくり

ものを  
つくる

## 松本俊彦

昭和八年創業の印刷業「松弘堂」代表取締役。震災により会社は全壊したが、現在は仮の工場で従業員とともに経営に汗を流している。被災した石巻の経営者たどと一般社団法人石巻元氣復興センターを立ち上げ、商品の販売や駄菓子などの商品の企画・開発なども手掛ける。

### 中高校生へのメッセージ

一番大変で辛いことは、実は一番のチャンスだと考えれば、気持ちは随分楽になります。どん底からは、良くなるしかない。あとはどんどん良くなるだけ。そう考えれば、気持ちも軽くなります。



## 地域に求められる企業に

株式会社松弘堂代表取締役社長 松本俊彦さん 宮城県石巻市

### 震災から現在

地震のときは免許の更新を行っていました。もの凄く大きな揺れで、これはただ事ではないと思いましたね。車で会社に向かつたのですが、信号は消えているし、車は大渋滞。カラジオが津波警報を伝えていましたが、「たいしたことはないだろう」と思っていました。

会社に着くと、従業員は避難した後で誰もいませんでした。すぐに膝まで波が来て、逃げながら「これは大変だ、命を落とすかもしれない」と、身の危険を感じました。途中にあつたマンションの二階に逃げたときには、たくさんの車が波に押し流されているのが見えました。そこには何人も避難していて、一緒に夜を迎ました。真っ暗な中、火災の炎が赤く空を焦がしているのが見えるだけ。とにかく何も音がしないんです。本当に静かでそれが逆に怖かったです。

翌朝、腰ぐらいの水の中を会社へ行くと、機械も納期を控えていた印刷物も滅茶苦茶でした。「会社は終わつたな」と、思いましたね。「震災を理由に辞めることができるな」。そんな思い

が頭をよぎりました。でも、やらないで辞めるより、やつた方がいいと、続けることを決意しました。

工場はない、設備もない。そうなれば、苦楽を共にした従業員は解雇するしかありません。この決断が本当に重かった。解雇を告げた時、従業員から苦情を言われました。そんな辛さから「なんで、経営者なんてやっているんだろう」と、思いましたね。

ゼロどころか、マイナスからのスタートで、いつ破産してもおかしくない。そんな状態でしたが、その年の十月には現在の工場を借りるまでにこぎ着けました。今の設備は震災前に比べれば二割程度しかないのですが、十分に仕事はできています。設備があるからできるのではなく、地域に必要とされるから仕事ができるのだと、実感しています。震災は確かに辛かった。不幸だったかもしれないけれど、いい経験をさせてもらいました。ば、それでいいと思います。

### 将来のビジョン

地域の人に育てられ、地域のためにある会社でありたいと思っています。何年か後には、もしかしたら印刷業じゃなくて他の業種になつていてるかもしれない。地域に求められる結果であれ

### 震災以前のこと

海に近い場所で現在と同じ、印刷広告業を営んでいました。昭和六年創業で、私で四代目になります。従業員は二十人いました。

岩手県盛岡市で牧場を営み、美しい「馬」たちで、美しい「森」をつくり、日本中で誇れる「森づくり・まちづくり」を目指す「美馬森スタイル」に取り組んでいる。集団移転の整備が進む東松島市野蒜（のびる）地区に隣接する森に牧場を移転させ、復興のために尽力したいと考えている。

## 八丸 健

### 中高校生へのメッセージ

好奇心を大切にして自分や周間に関心を持っていれば、自ずと感性は磨かれていきます。常に感性を大切に、自分らしさを受け入れて生き抜いていってほしいですね。



くらし

### 震災以前のこと

今と同じ、岩手県盛岡市で馬の牧場「八丸牧場」を経営していました。乗馬、馬の生産、育成、調教、馬とのコミュニケーションの研修や、牧場体験プログラムなど、馬にかかる全てのことをやつていました。山で伐り出した木を馬で運ぶ馬搬<sup>ばはん</sup>もです。馬との共働き生活をもう一度見つめ直すというのかな、やつてているすべてのこととで町づくりができるんじゃないかなと、考えていました。

### 震災から現在

震災が起こった時は牧場にいました。馬はソワソワと落ち着かない状態でしたね。電気が止まってしまったので、セキュリティをまず心配しました。餌はたまたま一ヶ月分ぐらいストックがあつたし、水は井戸がある。前日にガソリン類も満タンにしていたので馬に関する物資は充足していました。

数日して詳細な情報が入り始めました。停電していたし、携帯を見た時は物凄く衝撃を受けました。これからどうしようか、と思いましたね。まずは自分たちが生き残る方法を考え、知り合いの安否確認をし、支援物資をトラックで運ぶ手伝いをしました。一ヶ月ほど経った四月、任意メンバーで「馬っすぐに 岩馬手必ず馬くいくから」という団体を設立し、物資を届けた子どもたちのために何かできないかと、キャンプを企画しました。

寄附を募つたりしながら回を重ねています。子どもたちの笑顔が励みになっていますね。団体は二〇一三年三月に「美馬森Japan」として法人化。「馬は人を集め」るという馬特有の魅力を活かして、馬の力を活用しながら町づくりや都市と地域の人々との交流に取り組んでいます。

### 将来のビジョン

津波で壊滅的な被害を受けた東松島市野蒜地区の高台に、市が住宅の集団移転整備を進めています。C.W.ニコルさんのアフガン財団の「復興の森プロジェクト」と一緒に、そこに隣接する森に「美馬森ヴィレッジ」を作り、これまで通り、馬たちの力を借りながら、社会的課題の解決に臨んでいこうという計画を温めています。馬が間に入つて色々なコトやモノを繋げていきたいですね。これまでの経験から何事も「ちょうど」が大切だと思っています。「必要な分だけ」です。大規模化する必要はないし、大規模でやっている人を邪魔する必要もない。ほんのちょっとだけ一緒にやろうよつていうのがいいと思っています。馬は人を惹きつける力があります。人が集まるということは愛情が増えるということとで、森や農地、地域に愛情が入ります。そこから未来が開けると思います。

くらし

食を  
守る



## かき 目指すは世界に通用する牡蠣

牡蠣漁師 阿部政志さん 宮城県石巻市狐崎浜

父親の代からカキの養殖をやっていました。牡鹿半島の南側に位置する狐崎浜は、カキを中心とした漁業が盛んな地域で、ほとんどの漁師はカキ養殖をやっていました。養殖したカキはむき身にして、漁協に出荷していました。いわゆる共販という方法です。

### 震災から現在

地震があつたときは漁から戻つて片付けをしていました。もの凄い揺れでとにかく立つていられなかつた。目の前の岸壁が裂けるのが見えました。子どもの頃から「地震が来たら津波が来る。すぐに船を沖に出せ」と、教えていたので、慌てて船を沖へ出しました。

仲間の船も沖に停泊し、そこで一晩過ごしました。携帯の電池は切れるし、船のGPSも機能しなくなつたんですが、皮肉なことに石巻の火事で自分の居る位置が分つたんです。夜が明けて、少しずつ陸へと戻つてくると、海上のがれきが増えてくるんですよ。「おかしいな」と、思いました。その時は甚大な被害なんて思いもしませんでしたからね。自宅に戻り、だいたいの状況が分つたんです。

三月ですからカキの出荷の最盛期ですよ。でも、カキは全滅。いかだもない。あるのはガレキの山。何から手を付けれ



### 阿部政志

石巻市の牡鹿半島にある狐崎浜で、父の代からカキの養殖業を営む。震災後、頼りにしていた漁協が機能せず、販路開拓の必要性に迫られた。試行錯誤を繰り返しながらも、子どもたちが夢を抱けるような漁業にしようと、取り組んでいる。

### 中高校生へのメッセージ

やってみなければ分らないことが世の中にはたくさんあります。失敗を恐れずにチャレンジしてください。そうすれば、自分自身も変われます。

### 将来のビジョン

世界に通用するカキを育てて、顔の見える販売をしたいですね。食べる人に喜んでもらえば、努力の甲斐もあります。厳しい面もありますが、がんばりますよ。

震災以前のこと

ばいいのか、何も考えられませんでした。先が見えない。情報もない。根気よく手作業でがれきを片付け、自分の漁具を回収するしかなかつたですね。「漁師を辞めようか」と思い悩みました。そんな中、生き残つた種ガキが見つかつたんです。十六人ほどの仲間といかだを組んで育てたら、半年ほどで立派なカキが育つたんですよ。ところが、漁協が機能していくなくて、せつかく育つたカキが出荷できなかつたんです。これじゃ駄目だと思いました。漁協に出荷できないと、何もできなくなるなんて駄目ですよ。それをきっかけにカキのことや販路のことをいろいろ勉強しました。東京のオイスターバーへも行きました。

消費地に行って教えられたこと、ボランティアで来てくれた方に聞いて気付かされたことは本当にたくさんあります。色々解決しなければならない課題はありますが、販路拡大に向か、努力をしています。



## 森と海の繋がりを伝える

NPO法人 森は海の恋人副理事長 畠山 信さん 宮城県気仙沼市

**震災以前のこと**  
カキ、ホタテの養殖をしながら、森と海との繋がりを伝えるための環境教育プログラムを組んで、子どもたちとキャンプをしたり、学校の野外活動のお手伝いをしたりという活動をしていました。

**震災から現在**  
震災が起きた日は海辺で養殖の仕事をしていました。とても大きく揺れて、海を見たら水が既に動き出しているのが分ったんです。船を守ろうと沖に向かいましたが、第一波に巻き込まれて舵が壊れ、漂うだけになってしまったので、海に飛び込んで何とか陸地に泳ぎ着きました。

そこは気仙沼の大島だったんですが、四日間ほどは火災をくい止めるために山肌を削ったり、貯水タンクの水を山まで運んだり、島の人と一緒に活動しました。自衛隊のヘリで内地まで運んでいただいて家に向かいましたが、津波に流されてすべてなくなっていました。幸い実家が流れずに済んだので、冷凍庫にあるものを少しずつ食べていました。

何日かして、NGOやNPO、民間の支援団体の方たちが物資の配布に来られたので、「○○に住んでいるおばあさんは食糧が不足している」などの地元の情報を提供して助けてもらっていました。支援団体の方たちと地元の人たちを繋ぐ役割ですね。震災

前からやっていた子どもたちのキャンプも、再開しました。子どもたちは心を解放する時間があつてもいいと思ったんです。

一方、漁業者という立場ですと、大学の先生方で調査チームを結成していただいて、海底の泥の分析などを定期的に実施していました。震災の年の夏に、カキやホタテの餌になる植物プランクトンが爆発的に増えたんですよ。それがいると分つただけでもホツとしました。

「津波の後はいかだが流されたりするけれども、養殖の再開を急げ」という言い伝えがあつて、色々な方の助けを借りて養殖を再開し、二〇一二年一月にはカキの出荷ができました。この背景には豊かな森の存在というのが欠かせなかつたと思います。

地元の地区に高さ九・九メートルの防潮堤の計画があつたんですが、そもそもその高さのものがあると、そこは故郷じゃなくなりますし、雰囲気も変わります。住民の方々はいらないという判断をしたんですね。住民百パーセントの合意をとつて行政側に要望書の提出もしました。

### 将来的ビジョン

海と森の繋がりにいち早く着目し植林活動などの環境保全活動や、環境教育を実践しているNPO法人森は海の恋人副理事長。被災者と支援者のマッチングから海の調査活動、防潮堤問題への取り組み等、精力的に活動している。二〇一四年四月には舞根森里海研究所を設立。



### 畠山 信

海と森の繋がりにいち早く着目し植林活動などの環境保全活動や、環境教育を実践しているNPO法人森は海の恋人副理事長。被災者と支援者のマッチングから海の調査活動、防潮堤問題への取り組み等、精力的に活動している。二〇一四年四月には舞根森里海研究所を設立。

### 中高校生へのメッセージ

まずは、色々な問題が世の中にあると知ること。世の中には色々なデータが存在していますが、それらが真実かどうかを見極めないといけない。そのためには自分で調べるということが最も重要になります。

# ワークシート

パッション / 情熱

ビジョン / 世界観

ミッション / 使命

スキル / どんな能力が必要でしょうか？

スキーム / どんな仲間がいればできるのでしょうか？

## 三井物産の東日本大震災復興支援活動

当社は、震災が発生した直後から、義捐金や救援物資の調達・提供等、いち早く緊急支援活動を開始しました。それから3年半余りの間、甚大な被害を受けた被災地の変化に応じ、当社の復興支援活動も様々に広がっています。その活動の一部をご紹介します。



### 役職員によるボランティア活動

瓦礫撤去や倒壊清掃など、被災された方々の生活再建のお手伝いからスタートしました。現在でも小・中学校の引っ越し作業や仮設住宅団地内の交流活動のサポートなど、ニーズに応じて内容や形を変えながら継続しています。

### 社有林材を使った仮設図書館の建設・寄贈

当社が所有する社有林「三井物産の森」の木材を使い、陸前高田市に仮設図書館を建設・寄贈しました。子どもたちの読書や地域の方々のコミュニケーションの場として活用されています。

### 三井物産環境基金による助成活動

地球環境問題に配慮した復興支援活動を行う団体や組織を助成し、生活の再建や持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みを支援しています。

### 復興活動ドキュメンタリー番組の制作・放映

復興支援ドキュメント「未来への教科書～For Our Children」を制作し、BS12チャンネルで放映しています。大震災による困難を乗り越えていく人々の姿を紹介し、日本人の持つ強さ、素晴らしさを未来に伝えています。

### 消防殉職者遺児向けの奨学金提供

発災後の救援活動で殉職された多くの消防関係者や一般市

民の子弟の皆さんが、夢や希望を持ち、存分に学べるよう、「東日本大震災消防殉職者遺児育英基金」を通じて奨学金を提供しています。

### 地域の活性化に繋がる事業の創出

水産加工業の高度化や新たな雇用創出へ向けて、「気仙沼水産加工団地」の開発に取り組む気仙沼鹿折加工協同組合の活動を支援しています。また、新たな復興のシンボルとして、東北最大級となる「仙台水族館（仮称）」の建設にも着手、2015年春の開業を目指しています。



仙台水族館（仮称）完成予定図

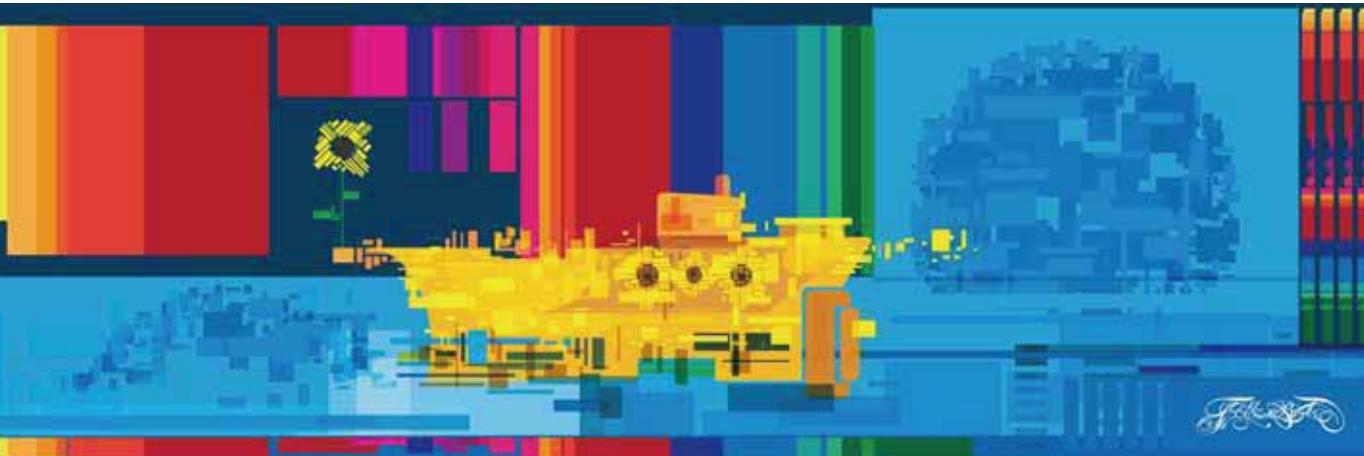
### 三井物産ウェブサイト

「東日本大震災への対応」

[www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/disaster-relief/](http://www.mitsui.com/jp/ja/csr/contribution/disaster-relief/)

気付いた事をメモしましょう！

気付いた事をメモしましょう！



Shiawase-maru illustrated by João Elias de Brito for Mitsui & Co.

主 催 : RA 復興支援メディア隊  
(事務局:合同会社アースボイスプロジェクト)

協 賛 : 三井物産株式会社

企画協力 : ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社



## 世界をつなぎ、人を育て、地球を守る。 夢あふれる未来作りのために。

三井物産は、「国際交流」「教育」「環境」の3つのテーマを中心に、世界中でさまざまな社会貢献活動を進めています。大切な地球と、そこに住む人びとのこれからのために、私たちができるることを、ひとつひとつ。



サンクトペテルブルク  
国立大学冠講座  
ロシアにおいて、日本への理解と相互交流を深める取り組みを行っています。



モザンビーク  
地域貢献プログラム  
太陽光発電を利用した灌漑設備を寄贈し、農作物の生産性向上及び多様化を図ることで地域社会の持続可能な発展を目指しています。



三井物産環境基金  
未来につながる社会を目指して、震災復興支援を含めた環境貢献活動や環境分野の研究を行うNPO/NGO・大学等の研究者に対して幅広く助成を行っています。



日中経済および文化交流の促進を目的とした冠講座を開催しています。



在日ブラジル人支援活動  
在日ブラジル人学校児童向け奨学金などの子弟向け教育活動や、NPO団体への支援などを行っています。



米国三井物産財団の活動  
教育や地域福祉などの幅広い分野において、アメリカ社会に貢献する活動を進めています。



森のきょうしつ  
三井物産の森での森林体験や、学校への出前授業に加え、ウェブサイトでも森の役割と木材産業を通じた環境保全を伝えています。



ブラジル三井物産基金  
サンパウロ大学での冠講座開催や、帰国した日系人子弟の現地学校への適応支援などを行っています。



「三井物産教育基金(MEF)」研修プログラム  
オーストラリアの大学生を対象にした日本での研修プログラムを実施しています。



 三井物産  
[www.mitsui.com/jp](http://www.mitsui.com/jp)